霧島市立（　　）中学校一年　　名前（　　）

霧島市「今週の一問」
中一国語　十一月八日版
平成二十三年鹿児島ベーシックから

問　次は、「全国新聞」に掲載された「シリーズ広がる食育」の新聞記事である。これを読んで、次の問いに答えなさい。

新聞記事の――線部に、「食に関する取り組みは、健全な心身の成長と、自分を取り巻く人々の思いを理解することにつながる。」とあるが、この記事に対する自分の意見や考えを次の条件に従って書け。

条件１　「この記事を読み、」で書き始め、原稿用紙の使い方に気をつけて書くこと。

条件２　自分の考えの根拠となる具体的な体験や事実を引用して書くこと。

条件３　百字以上、百二十字以内で書くこと。

「全国新聞」平成二十一年六月二十日（土曜日）より

シリーズ　広がる「食育」　最終回

食への思いを育てる

「弁当の日」という取り組みが全国の学校に広がっている。香川県のある小学校では、5・6年生の児童が、年5回自分たちだけで作った弁当を食べている。ここでのねらいは、子どもの「自立」。自分の食べるものを自分で作ることを通して生まれる自信や、多くの人のおかげで食事をすることができるのだという気付きが自立につながると考えている。

全国的に見ると、学校給食に地域の食材を積極的に取り入れたり、伝統的な郷土料理を献立に盛り込んだりすることも広く行われている。これは地域の産業に対する理解を促し、伝統的な食文化を継承しようとする思いを育てることになる。

「食育の日」に合わせて、今週は各地の様子を紹介してきた。食に関する取り組みは、健全な心身の成長と、自分を取り巻く人々の思いを理解することにつながる。

食への思いを育てる様々な取り組みに今後も注目していく。

シリーズ広がる食育

（新聞の内容）※上の段の記事の文字が読みづらい人は、こちらを読んでください。

「弁当の火」という取り組みが全国に広がっている。香川県のある小学校では、5・6年生の児童が、年5回自分たちだけで作った弁当を食べている。ここでのねらいは、子どもの「自立」。自分の食べるものを自分で作ることを通して生まれる自信や、多くの人のおかげで食事することができるのだという気付きが自立につながると考えている。

全国的に見ると、学校給食に地域の食材を積極的に取り入れたり、伝統的な郷土料理を献立に盛り込んだりすることも広く行われている。これは地域の産業に対する理解を促し、伝統的な食文化を継承しようとする思いを育てることになる。

「食育の日」に合わせて、今週は各地の様子を紹介してきた。食に関する取り組みは、健全な心身の成長と、自分を取り巻く人々の思いを理解することにつながる。

食べ物への思いを育てる様々な取り組みに今後も注目していく。

《解答用紙》

											こ
											の
											記
											事
											を
											読
											み
											、

霧島市立（　　）中学校一年　　名前（　　）

霧島市「今週の一問」
中一国語　十一月八日版
平成二十三年鹿児島ベーシックから

問　次は、「全国新聞」に掲載された「シリーズ広がる食育」の新聞記事である。これを読んで、次の問いに答えなさい。

新聞記事の――線部に、「食に関する取り組みは、健全な心身の成長と、自分を取り巻く人々の思いを理解することにつながる。」とあるが、この記事に対する自分の意見や考えを次の条件に従って書け。

条件１　「この記事を読み、」で書き始め、原稿用紙の使い方に気をつけて書くこと。

条件２　自分の考えの根拠となる具体的な体験や事実を引用して書くこと。

条件３　百字以上、百二十字以内で書くこと。

「全国新聞」平成二十一年六月二十日（土曜日）より

シリーズ 広がる「食育」 最終回

食への思いを育てる

「弁当の日」という取り組みが全国の学校に広がっている。香川県のある小学校では、5・6年生の児童が、年5回自分たちだけで作った弁当を食べている。ここでのねらいは、子どもの「自立」。自分の食べるものを自分で作ることを通して生まれる自信や、多くの人のおかげで食事をすることができるのだという気付きが自立につながると考えている。

全国的に見ると、学校給食に地域の食材を積極的に取り入れたり、伝統的な郷土料理を献立に盛り込んだりすることも広く行われている。これは地域の産業に対する理解を促し、伝統的な食文化を継承しようとする思いを育てることになる。

「食育の日」に合わせて、今週は各地の様子を紹介してきた。食に関する取り組みは、健全な心身の成長と、自分を取り巻く人々の思いを理解することにつながる。

食への思いを育てる様々な取り組みに今後も注目していく。

シリーズ広がる食育

（新聞の内容）※上の段の記事の文字が読みづらい人は、こちらを読んでください。

「弁当の火」という取り組みが全国に広がっている。香川県のある小学校では、5・6年生の児童が、年5回自分たちだけで作った弁当を食べている。ここでのねらいは、子どもの「自立」。自分の食べるものを自分で作ることを通して生まれる自信や、多くの人のおかげで食事することができるのだという気付きが自立につながると考えている。

全国的に見ると、学校給食に地域の食材を積極的に取り入れたり、伝統的な郷土料理を献立に盛り込んだりすることも広く行われている。これは地域の産業に対する理解を促し、伝統的な食文化を継承しようとする思いを育てることになる。

「食育の日」に合わせて、今週は各地の様子を紹介してきた。食に関する取り組みは、健全な心身の成長と、自分を取り巻く人々の思いを理解することにつながる。

食べ物への思いを育てる様々な取り組みに今後も注目していく。

《解答用紙》

（解答例）

伝のそ土気ど校だとの統
え思このがのでとは献的こ
ていに食あ給も私、立なの
いを込文る食豚は意に郷記
き私め化。メ骨思義取土事
たはらや伝ニやうがり料を
いしれそ統ュけ。あ入理読
。ったの的ー い私るれをみ、
か人味なは飯のこる給、
り々、郷人な学とこ食伝